

## 大腸憩室

憩室とは腸の壁の一部が膨らみ、腸の外側へ袋状に飛び出した状態のことを指します。従来は欧米人に多い疾患と考えられていましたが、近年ではわが国においても増加傾向にあり、年齢とともに頻度が高くなるとされています。憩室が起こるしくみは不明ですが、腸管の中の圧力が高まることで、大腸の壁の弱い部分が腸の外側へ押し出されると考えられています。原因として食物繊維不足の食事や、便秘、加齢などが推測されています。基本的に大腸憩室があるだけでは症状はありませんが、大腸憩室を持つ方の 10～25%程度で、後に述べる憩室炎や憩室出血を発症すると言われてしています。

## 大腸憩室炎

憩室に便がつまり、感染などで炎症を起こすことで発症します。主な症状は腹痛と発熱です。診断には画像検査が有用であり、CT 検査や腹部エコー検査を行います。治療としては入院していただき、絶食と点滴で腸の安静をはかりながら、抗生剤の投与を行います。軽症の場合は外来通院での治療が可能な場合もあります。多くの場合は内科的な治療で治りますが、まれに腹膜炎を合併し手術治療が必要となることもあります。治療後の予後(見通し)は良好ですが、治療後に同じ病気を繰り返す(再発)可能性が高いことが知られており、約 30%の方が大腸憩室炎を繰り返すと言われてしています。

## 大腸憩室出血

憩室の中にある血管がやぶれ、腸の中へ出血する病気です。腹痛や発熱はなく、突然肛門から真っ赤な血が多量に出るのが特徴です。高血圧症や脂質異常症があること、抗血栓薬(血液さらさらの薬)を服用していることがリスクと言われてしています。診断には先ほどの大腸憩室炎と同様に CT 検査が有効です。治療としては可能であればまず下部消化管内視鏡(大腸カメラ)での止血を試みます。出血している憩室まで大腸カメラを進め、止血クリップを出血点に打つことで止血します。内視鏡による止血が難しい場合、あるいは頻回に出血を繰り返す場合には動脈塞栓術(血管造影検査をもちいて出血している血管をつめる治療)や腸を切除する外科手術を考慮します。治療後の予後(見通し)ですが、大腸憩室出血の約 8 割は自然に止血します。しかしながら、多量に出血することで輸血治療や緊急手術が必要となることがあり、出血を繰り返すこと(再発)が多いのが本疾患の特徴と言われています。